

1 学校教育目標
自分らしく 元気に 持てる力を精一杯発揮し 人と関わりながら 主体的に学び生活する児童生徒の育成

2 本年度の重点目標
<p><かがやく児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ○元気で笑顔あふれる児童生徒 <ul style="list-style-type: none"> ・活力あふれる児童生徒の育成に向けた日々の授業の充実 ・心身の健康増進と体力の向上、食育の推進と保健指導（性教育）の充実 ・児童生徒の自立と社会参加に向けたキャリア教育・進路支援の充実 ○仲間と仲良くする児童生徒 <ul style="list-style-type: none"> ・「認め合い、ほめ合い、励まし合い、助け合う」心の育成 ・よりよい人間関係作りを目指した人権教育の推進 ・「いのちを大切に作る心」を育む指導の充実 ○主体的に活動に取り組む児童生徒 <ul style="list-style-type: none"> ・学校・学部教育目標、年間指導計画等の根拠に基づく教育実践 ・児童生徒の実態を踏まえた諸計画の的確な立案と授業における具現化 ・児童生徒会活動の充実 <p><かがやく学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域に信頼され、地域とともにある学校 <ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全な学校づくりの推進と防災体制の強化 ・特別支援教育のセンター的機能発揮のための諸事業の推進 ・学校運営協議会及びCSの継続と深化 ○学習環境の充実と環境教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高の連携と各学部の持ち味を生かした教育の展開 ・組織的な環境教育の実施と評価（学校版環境ISOの取組） ・ICTの活用による、授業力の向上及び校務の効率化 ・花と緑の環境づくり推進 ○教職員間の協働 <ul style="list-style-type: none"> ・業務のスリム化と分掌部及び学部間の円滑な情報共有が可能となる組織的運営 ・専門性の維持・向上に向けた研究・研修体制づくり <p><かがやく地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ○交流及び共同学習の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・近隣小中学校等との交流の充実 ○各関係機関及び高等部移設に伴う関係部署との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・天草地域特別支援連携協議会における関係機関との連携及び校内支援体制の強化 ・高等部移設に伴う天草拓心高校との交流及び地域理解の推進 ○コミュニティ・スクールによる地域連携の継続 <ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育活動についての情報発信及び地域人材活用の推進 ・地域資源を活かした授業づくりの推進及び地域貢献 ・地域と連携した防災体制の継続

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	安全・安心な学校づくり	・衛生管理・安全管理を徹底できたか。	・衛生面や安全面におけるリスクを最小化し、傷病等発生の未然防止及び早期発見に努める。	・予防対策等の共通理解及び活動前の確認・徹底を図る。 ・日常的な健康チェックや学習活動を通して、	A	・新型コロナウイルス感染症対策として、給食配膳前の健康チェックを実施したり、感染拡大期には給食配膳を職員で行ったり、歯磨き指導の有無を判断したりとリスクレベルに応じた校内周知を図り、組織的な共通対応を実現。 ・感染症予防のための項目を分かりやすくイラストにして各クラスに配付

			<ul style="list-style-type: none"> 衛生面及び安全面に関する話題を取り上げ、自己管理意識の向上につなげる。 連絡帳等を通して、保護者との連携を密にするとともに、「ほけんだより」等を通して積極的な情報提供を行う。 毎月行う安全点検の結果を迅速に集約し、関係者及び事務部等と連携を図りながら、各場所の衛生面及び安全面の向上を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> し、児童生徒に担任から保健指導を行ったり、教室掲示したりするなど、予防のための対策を実現。 健康チェックカードや日々の連絡等で保護者と連携を密にしながら、児童生徒の健康状態を把握。「ほけんだより」にて学校保健委員会での協議内容や感染症予防対策等を保護者へ定期的に情報提供。 安全点検の結果を受けて円滑に関係者及び事務部等と連携して、各施設設備の衛生面や安全面での向上を実現。
	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理を徹底することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練の反省等を踏まえながら、危機管理マニュアルの見直しや更新を行い、安全安心に過ごせる環境整備や体制整備を図る。 保護者や職員の防災に関する連携強化及び意識向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時に身を守る方法や体制等を確認するための防災教育、避難訓練を定期的実施する。 危機管理マニュアルをPDCAサイクルに基づいて見直し、より良いマニュアルへの改善につなげる。 定期的に防災通信を保護者・職員向けに発行しながら、危機管理や防災に関する情報を積極的に発信・共有する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に避難訓練や防災教育を実施。訓練後には職員にアンケートを配付し、成果や課題についての意見を収集したことで、危機管理マニュアルの見直しや更新に反映。次年度も定期的に避難訓練を実施し、危機管理マニュアルを見直し、安全安心な環境や体制を整備。 各学期に防災通信を作成し、保護者に配付。今後も啓発に向けて、定期的に防災に関する情報を発信。
業務改善・働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 効率的な業務遂行によって、時間外勤務を抑制することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業準備等を含めた個人の業務時間を確保し、効率的な業務遂行に向 	<ul style="list-style-type: none"> 業務等に対する改善策を集約し、組織改革と意識改革につなげる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に業務対応等に係る職員アンケートを実施。職員の困り感や要望、アイデア等を集約、共有し、正

			けた意識向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 各種会議等を積極的に縮小、削減したり、短縮授業日を設定したりして、業務遂行に費やす時間を生み出す。 効率的・効果的な教材及び資料等の作成及び活用方法を学ぶ機会を設定する。 		<p>規の勤務時間外の従事状況を改善。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育課程等を定期的に見直し、保護者等の同意を得ながら試行段階を経て、週1日の短縮授業日を設定。 外部講師を招いたり、定期的に情報発信をしたりしながら、効率的な業務遂行方法を習得する機会を設定。
不祥事防止	<ul style="list-style-type: none"> 風通しの良い職場づくりに努め、不祥事を防止することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃からのコミュニケーションを図りながら職員間の関係づくりを深め、不祥事防止に対する意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に、教職員が抱える困り感等を集約し、迅速に対応しながら負担軽減につなげる。 教職員のよさを受け止め、運営委員等が積極的に認め、褒めるなど、自己有用感を高め合っていく。 不祥事防止研修資料等を活用するなど、日常的に不祥事防止に係る話題を取り扱い、不祥事防止への意識向上を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 現状把握のためのアンケートを定期的実施しながら、衛生委員会等を中心に学部主事等と現状の再確認や改善策検討を積み重ね、良好な職場環境づくりを実現。 学部運営や分掌業務遂行において、主事・主任がフォロー体制を整え、個々の力量に応じた役割分担や柔軟な対応に努め、組織力を向上。 不祥事防止に係る情報発信を定期的に行い、良好な職場環境の在り方について職員間で共有し合いながら、不祥事に係る事象発生を抑制。 	
文書等の共有・管理	<ul style="list-style-type: none"> 文書等の各種情報を共有しながら、文書管理を徹底することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有をしやすい環境を整備し、使いやすいルールを周知・徹底しながら文書管理の意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有をするためのツールを整理し、スムーズな情報共有ができるよう定期的に見直しを行う。 管理方法について周知を行い、データ流出等 	A	<ul style="list-style-type: none"> ゆうネットやGoogle Classroomにおける情報共有方法の整理を行い、随時修正変更を加えながら運用。会議資料や周知文書等の整理・共有をすることができ、校務の効率化が実現。 端末や文書の管理方法について、マニュアルを作成し周知。USB等の機器 	

				を未然に防げるよう整備する。		管理のアンケート等を通して、一人一人の情報取り扱いに係る感度が向上。
授業の充実	カリキュラム・マネジメントの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルに基づき教育課程を改善することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に応じながら、定期的に教育課程の見直しや改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程評価表を用いて、全職員の意見を集約し、教育課程の改善につなげる。 ・年間指導計画に記録している児童生徒の評価を用いて、実態に応じた教育課程へと検討、修正していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・Google Formsを使用して、本年度の教育課程等の在り方に係る全職員の意見を集約。その意見を各学部の話し合いで活用し、次年度の教育課程の改善に活用。 ・年間指導計画に児童生徒の評価を入力し記録。次年度の年間指導計画作成へ活用。
		<ul style="list-style-type: none"> ・各種の計画ツールを活用しやすいように整理することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活用方法や作成方法の統一を図る。 ・各種の計画ツールの目的を明確にし、見直しや改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作成時期に応じて、見本や作成方法の周知を行う。 ・本年度の各種の計画ツールの活用状況を把握しながら方策の検討を行い、作成及び活用の効率と効果を高める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・作成時期前に見本や作成方法の適宜周知を行い、作成方法を統一。 ・統合型校務支援システムの詳細がつかめず、計画ツール等の整理や検討を進めることが難航。システムの導入を行いながら整理対応。
効率的・効果的な授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の効率的な授業準備方法を含めた授業実践力を高めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループによる授業研究の実施により、効果的な授業の実践、習得を図る。 ・校内研修に係る取組により、ICTの利活用を含めた効率的な教材準備の在り方について、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員を縦割りにして構成されたグループで授業の研究に臨むとともに、それぞれのグループが研究テーマをもつことで、課題意識を高める。 ・ICTの利活用を含め、教材研究をテーマとした研究通信の発行や各種研修により、授業実践力の向上につなげる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の縦割りグループによる授業研究を毎月実施。各グループのテーマに基づき、児童生徒の目標達成につながる授業の在り方や授業後の取組について協議。外部講師や、教育センターの活用。 ・計4回の研究通信の発行。情報教育部と連携し、ICT利活用につながる環境整備（年間指導計画の様式見直し等）を実施。 ・授業実践力向上の評価にかかる指標不備。職員アンケートで段階評価を実施し対応。 	

キャリア教育 (進路指導)	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の視点を踏まえ、将来のために今の生活や学びを充実させることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 系統性を意識したキャリア教育の充実を図る。 卒業後の生活をイメージした高等部現場実習や中学部職場体験を設定し、各関係機関と連携を図りながら内容の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学部の取組状況を積極的に共有し、次のステージを意識した実践の質を高めていく。 生徒の実態及びニーズを踏まえ、労働及び福祉の関係機関と連携しながら実習先の選定及び提案を行う。 高等部卒業後の福祉サービス利用に向けて市町の福祉課と情報交換を行い、就労アセスメントやグループホームの利用体験などを計画的に実施する。 中学部生徒の職業観育を目指して職場体験を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 分掌部会で各学部の進路に関する情報を共有し学部会等で発信及び各学部のニーズに応じた情報を提供。 面談での聞き取りを踏まえながら現場実習を実施。3年生については相談支援事業所等の関係機関を交えて進路の方向性を協議。 7月に高等部校舎にて事業所向け学校公開を実施。地元企業、行政、福祉関係者が参加。これをきっかけに進路担当が地元ラジオ番組に出演し、本校の進路指導について周知。新規実習先の開拓を実現。 コロナ禍の影響があったが、臨時実習の設定や就労アセスメントの実施方法の変更等で対応。 10月に、障がい福祉サービス事業所にて職場体験を実施。
	進路に関する情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 進路に係る情報提供ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者・職員のニーズに応じた進路情報を定期的に提供する。 職員及びPTAを対象とした進路研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路に関する情報提供として、全学部向け「進路だより」を年9回発行し、各学部におけるキャリア教育の取組について年3回発行する。 職員、PTA役員の意見を踏まえ、講師招聘、視 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路だよりを全学部向け8回、各学部向け3回発行。全学部向けが不定期発行になっていたため、次年度は定期発行で設定。 コロナ禍により視察研修の実施回数が減ったが個別に対応。

				察研修及び事例発表等の研修を実施する。		・高等部保護者を対象に、本渡年金事務所による「障害年金」の研修会を実施。
生徒 (生活) 指導	交通安全指導の充実	・登下校指導を含め、交通安全に係る指導を徹底できたか。	・外部情報の活用及び関係機関との連携を図りながら、交通安全に係る意識の向上と取組の徹底を図る。	・警察と連携し、交通安全の取組や危険箇所等の最新情報を児童生徒に提供する。 ・学部の実態に応じて交通安全教室や自力通学等講習会を行う。 ・長期休業中の交通安全や居住地の危険箇所確認を行う。	B	・天草警察署から講師を招聘し、横断歩道体験や乗車体験を行い、交通安全について意識向上を実現。高等部についても外部講師招聘を検討。 ・自力通学生に対し、交通安全教室を行い、交通ルールや安全確認などの理解を深化。 ・長期休業前に、天草管内の交通事故多発地区や、事故件数等を天草警察署に確認し、生徒の安全意識向上を実現。交通ルールやマナー、法律についても取り上げる必要性あり。
	校則の充実	・行動目標として意識しやすい校則へと改訂できたか。	・児童生徒にとって分かりやすい校則の見直しを行う。	・児童生徒会やPTAとも連携を図りながら、禁止や否定的な表現ではなく、行動指針となるような肯定的な表現の校則となるよう見直しを行う。	A	・校内での検討後、PTAと生徒会へのアンケート調査を行い、肯定的な表現や児童生徒主体の文言、内容へと見直しを実現。
人権教育の推進	人権教育及び命を大切に育む指導の充実	・児童生徒及び職員の人権意識を高めることができたか。	・様々な人権課題について知ったり考えたりしながら、各々の人権感覚を高め合う機会を設けるとともに、人権教育に関する指導方法等の理解を深めながら、授業改善につなげる。	・「第三次とりまとめ」について確認し合うなど、各々が人権教育の指導に反映しやすい校内研修を3回実施する。 ・児童生徒の実態に合わせた人権教育の在り方について職員間で情報を共有し合い、人権教	B	・「第三次とりまとめ」について確認し合うなど、校内研修を3回実施。アンケート集計の結果から、人権課題についてより深くグループ協議を行うことが必要と判断。更に人権意識を高めるために、事前に資料を視聴するなど、研修方法の改善が必要。 ・児童生徒の実態に合わせた人権教育の在り方について職員間で情報を共有し合い、指導案を再考する時間を設定。

				育の質の向上を図る。 ・児童生徒が掲げる人権目標を掲示しながら、互いに人権意識を高め合う。		・各学部で学期別の人権目標を掲示。高等部では、学期の人権目標に合わせて、人権を大切にするために生活の中で意識する具体的な行動目標を立て、日々の生活の振り返りを実現。
いじめの防止等	未然防止・早期発見・早期対応	・いじめの未然防止・早期発見・早期対応の充実を図ることができたか。	・年2回のアンケートを実施し、早期発見につなげる。 ・全職員に、いじめ事案における組織的な対応と法的な根拠を周知する。	・アンケートによる情報収集に加え、学期ごとに児童生徒の気になる様子を職員から聞き取り、対応策を含めて共通理解を図る。 ・職員研修を実施し、具体的な組織的対応の在り方や、いじめ防止対策推進法について理解を深める。	B	・児童生徒と保護者へのアンケートを実施し、児童生徒の悩みや家庭での様子を把握。児童生徒の気になる様子を担任等から更に集約が必要。 ・いじめ防止に向けた職員研修を実施。法的根拠や組織的対応の方法、手順を確認。
地域支援	幼保小中高等学校への支援の充実	・幼保小中高等学校への支援の充実を図ることができたか。	・地区コーディネーター会議等で、地域の課題やニーズを把握する。 ・巡回相談等において幼児児童生徒の実態及び園内・校内支援体制を踏まえた助言を行う。	・支援エリア内の地区コーディネーター会議に参加し、情報を収集する。 ・巡回相談では、主訴を明確し、個別の支援と全体のUD化の二方向の視点での観察を行い、各校(園)のリソースに応じた助言を適宜行う。また、天草地域連携協議会巡回相談連絡会でも情報共有を行う。	A	・支援エリア内の地区コーディネーター会議へ13回参加し、地区コーディネーターと情報共有及び対応策検討を実現。 ・巡回相談実績のべ162件。 ・学習や生活、進路、特別支援学級の教育課程、職員研修等、多岐に渡る相談に対し、困り感を抱える幼児児童生徒の言動を観察し、言動の背景や具体的な手立てについて適宜助言。天草地域特別支援連携協議会巡回相談連絡会メンバーでの情報共有を定期的に行い、連携した巡回相談を実施。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域とともにある学校づくり	・各サポート体制の充実を図り、めざす学校像を実現できたか。	・CSビジョン図において、本校の実態や取組目標の共有を図	・全体研修を行い、本校のCSの取組について全職員で共通	A	・本年度の本校の実態について各学部で協議し、令和4年度版ビジョン図を作成。

			り、CSの3つのサポートチームでの取組目標8割達成を目指す。	理解を図る。 ・3つのサポートチームの取組計画及び内容を学校運営協議会委員と共有しPDCAサイクルを機能させる。		・3つのサポートチームの取組については、分掌部会でのPDCAサイクルを機能させ、目標の8割を達成。学校運営協議会でも総括し、貴重な意見を集約。
	県立天草拓心高等学校との連携	・県立天草拓心高等学校との連携体制を構築することができたか。	・施設等を有効に活用しながら、教育活動の充実を図る。 ・体験活動や協力活動、行事等での交流を推進する。	・施設活用等に関する定期的な情報共有の場を設け、よりよい教育活動につなげる。 ・共に生きることを理解できるよう、生徒に関する共通理解を図る場と交流活動の機会を積極的に取り入れていく。 ・合同での避難訓練等を行い、自然及び人的災害に対し、的確な情報収集及び共有方法や役割分担等の協力体制を整備する。	A	・教育活動（授業及び学校行事等）の円滑実施に向け、県立天草拓心高校との施設活用等に関する定期的な情報共有会を月1回実施。 ・共通理解を図るための職員研修に、本校特別支援教育コーディネーター及び進路指導主事を講師として派遣。 ・授業公開日に本校職員が多数参観。交流活動（フェスタ、収穫作業、牛舎見学等）を通して、生徒理解及び交流を実施。 ・共同防災訓練を2回実施。実態に沿う避難ルート、場所、防災設備を確認、防火管理体制を確立。
周年行事	創立50周年記念行事の準備	・創立50周年記念行事に向けて、効率的に準備を進めることができたか。	・コロナ禍を考慮した記念行事の在り方を定め、計画的に準備を進める。	・職員の準備負担を考慮しながら、スケジュールや役割分担を明確にする。 ・他校の取組状況等の情報を積極的に集約し活用していく。	A	・運営委員を中心に役割分担を図りながら、創立50周年記念事業の各種計画を作成。 ・令和4年度式典実施校や特別支援教育課と情報共有を図り、計画を効率的に検討、整理。

4 学校関係者評価

- ・様々な障がい特性がある児童生徒に対して、一人一人に寄り沿った教育活動が展開されている。児童生徒にとって、楽しく充実した学びの場となっている。
- ・熊本県人権子ども集会の取組報告動画が素晴らしかった。学校の楽しい雰囲気が伝わってきた。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をしっかりと行いながら、教育活動の充実が図られている。地域行事等ができない状況であるが、今後、交流等の充実に向けて地域との連携を大切にしていきたい。
- ・卒業後の生活を見据えた教育活動が展開されている。授業参観を通して、幼少期に携わった子の成長ぶりを目の当たりにでき、教職員のきめ細かな対応に感謝している。将来的に必要な力について精選した学習内容が求められている。
- ・天草拓心高等学校への移転に関しては、当初は、多くの保護者が不安を抱いていたが、新しい施設環境の中で、生徒たちが伸び伸びと楽しそうに学習に取り組む姿を通して、安心感、喜びへと変化していった。交流等を通して、天草拓心高等学校の生徒にとっても、いい刺激、学びになっているのではないだろうか。また、小中学部の児童生徒にとっても、ゆとりが生まれ、落ち着いた生活環境になっている。

5 総合評価

- ・学校教育目標の実現に向けて、新型コロナウイルス感染症の感染状況等を鑑みながら、教育活動の充実を実現。日々の学習活動の高度化と学校行事や校外活動等の体験的な学習機会の拡充を図りながら、主体的に学び生活する児童生徒の育成につなげることができた。
- ・本年度の重点目標でもあった高等部移転に伴う円滑な学校運営に関しては、ICTを活用した教職員間での情報共有方法の整備及びオンライン会議を活用。天草拓心高等学校との施設共有調整、交流の実施等、様々な課題を一つ一つ発展的に解消しながら、新たな組織体制の整備、確立につなげることができた。
- ・カリキュラム・マネジメントに関しては、働き方改革を意識しつつ、教育課程等を随時修正。研修の充実を図りながら、質の高い教育活動の実現に向けて、保護者との連携強化や授業準備時間の確保、教職員の専門性向上につなげることができた。
- ・学校評価の各項目に対する評価は、18項目中12項目（66.7%）がA評価。「授業の充実」にかかる項目において、新たな校務支援システムの導入への備え対応及びコロナ禍による活動制限の影響により、B評価が多くなった。本年度の課題を踏まえ、各分掌部長等がリーダーシップを発揮しながら、次年度の学校運営に生かしていく必要がある。

6 次年度への課題・改善方策

- ・円滑な学校経営…業務の整理・効率化、働き方に係る意識改革、校舎間の円滑な情報共有
- ・教育活動の更なる充実…自立活動の充実、各教科等を合わせた指導の理念と実践の整理
- ・天草拓心高等学校との更なる連携強化…交流活動の充実、施設・設備の円滑な共有化
- ・創立50周年記念事業の充実…記念行事・式典の実施、効率的な準備対応
- ・長寿命化改修工事に伴う環境整備…安全確保、教育活動の場の工夫、進捗状況の共有